

平成25年度 第5回 佐世保市図書館協議会 会議録

1. 日 時 平成26年2月21日(金) 午後4時30分～午後6時00分
2. 場 所 佐世保市立図書館 A会議室
3. 出席者 ○佐世保市図書館協議会委員 (定数5名)(出席5名)
 - ・学校教育関係者 畠本 孝子
 - ・社会教育関係者 宮原 利明
 - ・学識経験者 原口 孟士
 - ・学識経験者 阿部 律子
 - ・家庭教育関係者 櫻井 英子○事務局(出席3名)
 - ・図書館長 渡辺 恵美
 - ・図書館長補佐 坂口 周一
 - ・図書第一係長 浜田 裕子

4. 内容

「佐世保市立図書館の今後の運営のあり方について」答申書(案)の協議

5. 館長挨拶

6. 協 議

委員：答申書(案)の「1長期的な戦略を立てた運営」について意見はありますか。

委員：「学校図書室」という表現だが、学校現場では「学校図書館」という言い方を意識して使っている。場所を現すのであれば図書室だが、連携や支援となると学校図書館が適切だと思う。

全委員：「学校図書館」に修正に同意。

事務局：「1長期的な戦略を立てた運営」の中の「学校司書との連携」という表現だが、司書との連携もやっているが、同じように先生方との連携も行っているので「学校との連携」に修正してはどうか。

委員：「学校との連携」に修正する。

委員：他に「1長期的な戦略を立てた運営」について意見はありますか。

委員：指定管理者を導入すると短い期間での契約となり、長期的な戦略を立てることができないと考える。

委員：つづいて「2サービス目標・サービス計画の策定」について意見はありますか。

委員：世の中がコンビニ社会になり、それと同じレベルを公共施設に求める市民が多くなっている。便利さを求めて、本当に、なにが必要なのか見極められていない。

委員：高齢化が進み、図書館を利用している人の年齢層が偏っているのではないか。

事務局：確かに、そうかもしれない。今まで図書館を利用したことがない方に、どのようにアピールしていくかが重要であると考えている。平成26年度の図書館システムのリプレイスにおいて、既に連携を行っている4つの地区公民館図書室以外の地区公民館との連携を考えている。モデル的にいくつかの地区公民館で連携を実施してみる予定である。身近にある施設だと市民の方も足を運びやすいのではないだろうか。また、図書館を利用されていない方の理由の分析が必要だと考えている。つい、

ヘビーユーザーの方ばかりのサービスに目が向いてしまっているようなところがある。むしろ、今、使っていない方に使っていただくにはどうしたらいいのかということを考えていかなければいけないのではないかと思っている。

委員：図書館の敷居が高いと感じる人もいるのかもしれない。

委員：「2サービス目標・サービス計画の策定」は、答申の中で順番としてもう少し後ろのほうがよくないだろうか。

委員：確かに、実際に動き始めていることにつながる項目を先に書いて、その後に持ってくるのが良いように思う。

委員：それでは、「サービス目標・サービス計画の策定」は最後の項目にもってきますか。

委員：「5駐車場の有料化」の前がいいだろう。このことについては、まだ、図書館としては具体的な検討段階にも入っていないことがらなので最後がいいだろう。

委員：それでは、「地区公民館との連携について」「インターネットなどの環境整備について」「サービス目標・サービス計画の策定」「駐車場の有料化について」の順番で記載したいと思う。

全委員：了承

委員：つづいて、「地区公民館との連携について」協議したいと思う。

委員：先日、早岐に住んでいる方とお話しする機会があった。ずっと図書館を利用したことがなかった方だったが、最近、早岐地区公民館図書室を利用するようになって、とても便利だと喜んでいて。やはり、このような方はたくさんいらっしゃると思うので、掘り起こしのようなことが必要ではないだろうか。昨日、平戸の中央公民館に行った。高齢化が進んだ地区だったが、公民館の中に図書館があり、多くの方が利用されていた。高齢化率の高いところほど、移動手段が限られてくるので、佐世保市内も中央からはずれたようなところほど、連携の必要性があると感じる。

事務局：先日、公民館長会議で、図書館と地区公民館との今後の連携についてお話させていただいた。地域的なバランスを考えて、連携にかかるモデル地区を決めていきたいと思っている。公民館側としても、利用者の固定化があり、若い世代にも利用を促したいという思いがあるようだ。公民館の活性化にもつながるものと考える。

委員：放課後の子ども達の居場所として、小学校の低学年は学童保育があるが、中高学年や部活をやっていない中学生の居場所として公民館などの地域に受け入れの場所があれば考える。地域としても世代を超えた交流ができる場になると思う。地区公民館図書室は、そのきっかけ作りになると思う。

委員：地区公民館の本は、各地区の公民館の予算で購入しているのか。

事務局：既に連携している4つの地区公民館以外は、各地区公民館で購入している。3万円程度の限られた予算となっている。そのうえ、公民館職員も司書の専門ではないので、どのような本を購入してよいかわからない。図書館と連携を図り蔵書構成を決められるとよい。

委員：「市民が自宅近くの地区公民館図書室で、貸出、返却のできるシステムづくりを行ってほしい」では単なる要望になるので、語尾を「システムづくりが必要である」に変えたほうがよい。

全委員：変更に同意。

委員：つづいて、「インターネットなどの環境整備について」協議する。

委員：「図書資料を使って情報の信頼性を裏付けることができる」とあるが、言い過ぎのよ
うな気がする。語尾は、「信頼性を高めることができる」のほうがよいのではないか。

委員：確かに、インターネットの情報のほうが新しく正確な場合もある。

全委員：「信頼性を高めることができる」に変更に同意。

委員：情報や知識の取得のツールが、ペーパーであったり、電子であったりと多岐にわた
ってきている。変化する情報化社会に合わせた情報取得ツールを図書館に置く必要
性が出てきている。

事務局：これからの図書館はレファレンスサービスで、情報獲得に必要な資料を示すだけ
ではなく、解決に必要な人や場所を紹介できるようになればよいと考える。そのた
めには、司書の質の向上が重要になってくる。

委員：時代に合わせて図書館の役割は広がっていくようだ。

委員：つづいて、「駐車場の有料化について」協議する。

委員：地区公民館は、駐車料金が無料のため、目的外駐車が多く非常に困っている。この
ような事例からも、今後、前向きに検討していただきたい項目である。

委員：「受益者負担を求める時期に来ていると思う」の語尾は、「思う」ではなく断定した
表現に変えたほうがよいのではないか。

委員：「受益者負担を求める時期に来ている」に変更してよいか。

全委員：同意。

委員：つづいて、「おわりに」の項目の協議に入る。

委員：「佐世保市立図書館の運営指針であろうと考える」の語尾の「と考える」は、はずし
てよいのではないか。

全委員：同意。

委員：「行政サービスであることを認識してもらいたい」の表現だが、当然、図書館は行政
サービスとして認識されているから運営されているのであって、これは適切ではな
いと思う。語尾は「行政サービスである」でよいのではないか。

全委員：同意。

委員：「街を活性化するための図書館ではなく」の表現も、街を活性化に導く図書館を全否
定しているように感じられるので「街を活性化するためだけの図書館ではなく」に
変えてはどうか。

全委員：同意。

委員：「おわりに」の4～5行目で佐世保市民は「文化を感じられる施設を求めている」と
するなら、次の6～7行目の「そのためには ～ 利用しやすい施設であってもら
いたい」では、表現が弱い。そういう施設を「求めている」のだから、「利用しやす
い施設でなければならない」としたほうがよい。

全委員：同意。

委員：全体的に同じ意味のことが繰り返され、文章がくどくなっていないか。

委員：同感である。文章前半については、図書館についての述べられており、後半は街づ

くりについて述べられている。図書館について直接関係のあることではないので、今回の答申には必要ないと感じる。よって、下から6行目の「昨今は、」から最終行まで、削除してよいのではないか。

全委員：同意。

委員：本日の協議で、答申内容を決定としてよいでしょうか。

全委員：了承。

委員：それでは、本日の協議内容に答申を修正し、図書館長に提出します。